



新刊欽定四庫全書

^ 5  
4124  
4



門利5  
4124  
卷5-4



新野縣後回集卷之五

十月

秋無月

言のつれなきものなり

土佐 里晴

降雨乃定

鶴翅

小春

いづれか小春のころ

江戸 二柳

さきか小春のころ

伊勢 有時

さきか小春のころ

徐行

小六月

思ひかき接ぎのころ

幽篁

藤原の村のころ

其思

蝶夢編

神送

柳人月帷子云々云々月  
留阿也云々神云朝云邪  
昔云々人目云々神送  
昔初云々云々木云神  
本初云々神云龍云云  
神初云云云云神云云  
神乃云云云云云云  
神初云云云云云云  
云云云云神云云云云  
軍人云云云云云云

木安  
古琴  
傘相  
市燕  
佐嘉  
古巢  
花朗  
其右  
住猪  
野攻

神留

神帰

神迎

去猪

達磨忌

芭蕉忌

幣云云神云云云云  
初云云神云云云云  
本云云神云云云云  
新云云神云云云云  
何云云神云云云云  
本云云神云云云云  
云云云云神云云云云  
云云云云神云云云云  
云云云云神云云云云  
云云云云神云云云云

宇甲  
紫系  
猪碎  
素郷  
再可  
道肥  
之号  
蘭往  
英富  
秀民

法影講

法影講也軍師古の古紙子  
おん編也家事つれ細き衣  
當り女子善治しむ法老の  
一巻の月おしる乃中夜  
軍師公のしるる中夜  
法影の証もあつて中夜  
水仙の証もあつて中夜  
おん編もあつて中夜  
是れおん編の証もあつて  
一人の類もあつて中夜

和泉 松後

長政 花屋

由口

猿蓑

十城

良娥

紀伊 飯哉

江戸 井十

紀伊 淹列

夢光

冬二

法取越

經子講

哲文掃

冬三日

神言自そ掃文の法掃き  
冬の日其れおん編の  
冬の日其れおん編の  
冬の日其れおん編の  
一里の暑つて冬の日其れ  
おん編の証もあつて  
おん編の証もあつて  
おん編の証もあつて  
冬の日其れおん編の  
冬の日其れおん編の

江戸 五璣

斗外

如泊

素勢

上野 几熊

世東 素蝶

鳥高

古吟

他志

盤風

短日

冬月



除雨

雨を本れりてすまきむらり露  
むらり椋の葉ちりきゆれ  
初し運移りてのりてゆるり  
とく法心くさるるりや初毒  
花のちりて居るも初に  
雪の牛馬のちりて居る  
月とて居るも初に  
初時分初に居るも初に  
すくも本の日おちりて居る  
雪のちりて居るも初に

時雨

六窓  
傘  
鳥考  
若仙  
他  
都省  
亮車  
曉毫  
春溪

冬四

除雨

雨を本れりてすまきむらり露  
むらり椋の葉ちりきゆれ  
初し運移りてのりてゆるり  
とく法心くさるるりや初毒  
花のちりて居るも初に  
雪の牛馬のちりて居る  
月とて居るも初に  
初時分初に居るも初に  
すくも本の日おちりて居る  
雪のちりて居るも初に

風化  
万戸  
小娘  
羅漢  
玄衣  
暮給  
南尺  
子坪  
松後  
蝶夢

川音雨

初霜

初霜

多良乃花あつらひしつらふ  
志の心も花葉のふらふ見毫  
何るも花の心も極く小し  
川舟も花の心も極く小し  
しつらふも川舟の心も極く小し  
志の心も花葉のふらふ見毫  
何るも花の心も極く小し  
川舟も花の心も極く小し  
しつらふも川舟の心も極く小し

極下 夢江  
陸奥 似蓉  
伊賀 平角  
佐馬 吳右  
下流 有橋  
極下 鳳毛  
極下 行充  
極下 川里  
極下 玉屑

冬五

霜

神の心も花葉のふらふ見毫  
志の心も花葉のふらふ見毫  
何るも花の心も極く小し  
川舟も花の心も極く小し  
しつらふも川舟の心も極く小し  
志の心も花葉のふらふ見毫  
何るも花の心も極く小し  
川舟も花の心も極く小し  
しつらふも川舟の心も極く小し

極下 楓林  
極下 棠花  
極下 雲鶴  
極下 化石  
極下 素兄  
極下 素釣  
極下 倭泉  
極下 泉々  
極下 十歩  
極下 文萱

霜夜

朝も暮も雪のふり  
灯の光もあつたの  
松の葉も凍り  
飲みの水も凍り  
枯木も凍り  
よもぎの枝も凍り  
雪のふり  
根の凍り  
くもくも  
志の凍り

長夜

白粉

瓜泥

三思

月丘

立喬

群長

重厚

得皮

素恒

紫鏡

霜柱

霜折

六六

初雪

雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり  
雪のふり

伊勢

長夜

不休

巨海

文里

鼓水

青菫

古菜

梅珠

一斤

雪







雲

春風のつらさの雲の巻

五侍

金鶴

夕方の松の影の雲

翠兒

秋の夕陽の雲

森木

冬雪の雲

其正

春の雲

惟鶴

夏の雲

弄鶴

秋の雲

可不

冬の雲

菊五

春の雲

东儿

冬元

雲

夕陽の雲

画舟

雲

夕陽の雲

知在

雲

夕陽の雲

幽谷

雲

夕陽の雲

東明

雲

夕陽の雲

林子

雲

夕陽の雲

素兒

雲

夕陽の雲

雲雲

雲

夕陽の雲

梅居

雲

夕陽の雲

松屋



冬野

此の冬野の程言ふは冬野の

潭月

庭を宿の影のまはるる影を

民古

世を挽く焼くあまの冬野

君山

人の影をまはるる冬野

雪居

冬山

くまの影をまはるる冬野

臨花

冬野

高野の影をまはるる冬野

里桂

冬野

朽の影をまはるる冬野

七藏

冬野

一面の影をまはるる冬野

仙李

冬野

月をまはるる冬野

五波

冬野

入る影をまはるる冬野

冬十一

冬野

かれ冬野の影をまはるる冬野

菓名

冬野

あつ海の影をまはるる冬野

雨銘

冬野

船の影をまはるる冬野

雲野

冬野

白の影をまはるる冬野

麦字

冬野

心な影をまはるる冬野

踏橋

冬野

こゆ影をまはるる冬野

東菜

冬野

那の影をまはるる冬野

笠酒

冬野

自然の影をまはるる冬野

上流

冬野

何の影をまはるる冬野

谷戸

冬野

馬の影をまはるる冬野

無赫

冬野

馬の影をまはるる冬野

魚坊

冬川

牛尾の冬川ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり  
冬川ありては種ありては種あり

百尾  
昌々  
可箇  
我百  
蝶憂  
鼓年  
一古  
外央  
五来  
阿誰

水個

冬十二

冬構

冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり  
冬構ありては種ありては種あり

層風  
竹風  
志功  
聖陽  
柳絮  
波臨  
佳七  
届位  
可兆  
甚始

北窓閑

雪垣

數卷

白雲山の山頂にありては日影や  
山雲を抜くもよきとておのて  
松林の影をたたくもよきとて  
やまを登りて日影をたたくもよきとて  
此巻をて風のすきとて  
雪の影をたたくもよきとて  
冬巻の影をたたくもよきとて  
冬巻の影をたたくもよきとて

但馬 桑之  
呂兵 塘里  
能世 鏡水  
加賀 呂島  
飯前 岸白  
任波 如毛  
徳前 狐索  
醒風 風越

冬十三

冬籠

茶口切

神々の世もよきとて  
福寿科もよきとて  
菩提樹もよきとて  
冬巻の影をたたくもよきとて  
やまを登りて日影をたたくもよきとて  
此巻をて風のすきとて  
雪の影をたたくもよきとて  
冬巻の影をたたくもよきとて

任波 樽陰  
飯前 路風  
徳前 兼谷  
三尾 吳三  
三川 北雅  
紀前 只言  
能前 冬里  
加賀 龍山  
如毛 鷲白  
風足





李雨 道肥 一扇 丁月 志仙 山姥 貝菜 丁水 宗兆

李雨 道肥 一扇 丁月 志仙 山姥 貝菜 丁水 宗兆

李雨 道肥 一扇 丁月 志仙 山姥 貝菜 丁水 宗兆

冬二十五

炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭

炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭

炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭 炭

炭賣

十一年の暮の炭賣のついで

周民

衾

明の病の言ふ刻もやかき種

指嶋

あつたての世隔やうう衾

巴川

あつたての人の文もや紙もさす

李郊

蒲團

あつたての肩の法衣も布もさす

菅水

紙衣

あつたての人の文もや紙もさす

秋凡

あつたての文もや紙もさす

鼓枝

冬十六

頭巾

あつたての文もや紙もさす

其白

綿帽子

あつたての文もや紙もさす

其白

足袋

あつたての文もや紙もさす

道肥

あつたての文もや紙もさす

陰浪

湯澤

寒

たまたみのほろりてふらん  
あふきのあふきのあふきの  
有明のあふきのあふきの  
あふきのあふきのあふきの  
あふきのあふきのあふきの  
あふきのあふきのあふきの  
あふきのあふきのあふきの  
あふきのあふきのあふきの  
あふきのあふきのあふきの

飯無  
慎事  
見二  
暮白  
仙露  
楊花  
梧扇  
鱧鮒

冬十七

水漬

凍瘡

駈

つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつる

實雪  
泰漢  
妻光  
貝朱  
黃婦  
山葉  
雨橋  
此得

晴

木枯風

晴也朝来より暮に松は是  
嶽を也ひまの馬は遠の心  
孫もろくは鶴もよあや下仕女  
木も〜は心も〜は入るは  
〜は心も〜は入るは  
あはれ乃權也〜は  
木枯風〜は  
風也〜は  
晴也〜は

李朝  
松屋女  
若松  
路人  
唐國  
東華  
羽人  
玉色  
周江  
青葙  
里杖

冬十八

あ〜も西も〜は  
〜の〜は  
〜も〜は  
木枯〜は  
木枯〜は  
木枯〜は  
木枯〜は  
木枯〜は  
木枯〜は  
木枯〜は

飛川  
脱負  
藤臥  
京原  
羅風  
猿愛  
戸幽  
知水  
麦字  
止令

落葉

定めてる葉もわらわ葉のこころ  
寄る葉のこころの葉のこころ  
果てぬかたの葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ

文海  
為交  
只有  
花鳥  
園南  
秋葉  
牡丹  
芝月  
松水

冬十九

木葉

夕涼の葉のこころ  
かた風もこの葉のこころ  
雲もこの葉のこころ  
願ひ物もこの葉のこころ  
葉の思ひもこの葉のこころ  
ちりちり葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
ちりちり葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ  
あつたはつた木葉のこころ

文詠  
銀羽  
眉山  
松清  
春雨  
由葉  
梅齋  
素外  
秋毛

散紅葉

朽葉

冬枯

冬枯也 楊柳の葉も吹かれ枯る  
冬枯也 木々の葉も吹かれ枯る  
冬枯也 花も吹かれ枯る  
冬枯也 草も吹かれ枯る  
冬枯也 木々の葉も吹かれ枯る  
冬枯也 花も吹かれ枯る  
冬枯也 草も吹かれ枯る  
冬枯也 木々の葉も吹かれ枯る  
冬枯也 花も吹かれ枯る  
冬枯也 草も吹かれ枯る

大島 其黒 飛川 竹風 抱嵐 空原 昌博 石牙 荻素 必系

冬木立

冬木立也 木々の葉も吹かれ枯る  
冬木立也 花も吹かれ枯る  
冬木立也 草も吹かれ枯る  
冬木立也 木々の葉も吹かれ枯る  
冬木立也 花も吹かれ枯る  
冬木立也 草も吹かれ枯る

冬廿

枯柳

枯柳也 柳の葉も吹かれ枯る  
枯柳也 柳の花も吹かれ枯る  
枯柳也 柳の草も吹かれ枯る  
枯柳也 柳の葉も吹かれ枯る  
枯柳也 柳の花も吹かれ枯る  
枯柳也 柳の草も吹かれ枯る

魯白 旧山 渭川 谷水 泰里 峯二 臨沙 行調 友志 阿涼

枯櫻

枯蓮

枯萩

枯萩

枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに

喜笑  
陶  
李山  
杜由  
青曉  
管番  
坊姓  
出房  
菅海  
戸出

文之廿一

枯為

枯菊

枯菊

枯芦

枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに  
枯葉のしづかにしづかに

雨落  
五来  
望音  
望音  
乙介  
秋也  
築  
南圃  
古巢  
志柳

枯葛

かき草のふしむるの人の歌  
枯あゝも糖ともしるる声  
かき草のふしむるの人の歌  
葛の結ぶるふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌

冬  
草白

下  
桃岸

有  
刺

晋  
吉

無  
一

丹  
風

湖  
萍

尾  
宣

冬  
廿二

枯葛

枯茨

枯草

かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌

冬  
廿二

帰花

かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌  
かき草のふしむるの人の歌

下  
千

竹  
風

龜  
鏡

擔  
里

雪  
珊

魚  
翠

野  
橋

綺  
石

梧  
泉



春花

山茶花

つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき  
つばき けしき けしき けしき けしき

馬尾 雪下 九鼻 祇東 南等 佛仙 芳舟 霞笠 馬尾

冬廿三

水仙花

山茶

山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花  
山茶花 水仙花 水仙花 水仙花 水仙花

羽子 流螢 古道 探梅 長水 文河 巴明

枇杷花

枇杷花の香は冬に最もよく  
開花する。花は白く、果  
は黄色く、皮は厚く、肉  
は柔らかく、味は酸っぱ  
い。冬に最もよく開花  
する。花は白く、果は黄  
色く、皮は厚く、肉は柔  
軟く、味は酸っぱい。

丹后 個平

出づ 一路

和永

三粒 非倫

吳琴

猿研

其情

折凡

以流

張河 卷而

冬廿四

冬牡丹

茶花

大葉花

八半花

錦木

室梅

大葉花の香は冬に最もよく  
開花する。花は白く、果  
は黄色く、皮は厚く、肉  
は柔らかく、味は酸っぱ  
い。冬に最もよく開花  
する。花は白く、果は黄  
色く、皮は厚く、肉は柔  
軟く、味は酸っぱい。

以文

磯山

善翁

瓜坊

茶城

唐平

曹氏

出羽 相古

城后 菊文

膳善

蘭植

大根

蕪

胡蘿蔔

蕎麥刈

麥時

らんく蘭をき田の中は海より

わ林や田の南の水のりけ

引の勢大根もまらふは較

後まらむの風情も大に引

れくまらむはる海かあらぬ

るらんくまらむはる海かあらぬ

申風やらんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

株まらむはる海かあらぬ

麦まらむはる海かあらぬ

丹波

糸島

布重

乳赤

茶煙

五橋

芦洲

乳赤

澤橋

乳赤

冬廿九

干菜

大根

莖菜

網代

まらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

人の子らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

らんくまらむはる海かあらぬ

播下

故栖

揚花

竹村

懐花

南窓

其畑

冬水

一山

玉木

魚坊

上社

鮫

氷魚

Handwritten cursive text in the right column, likely a poem or a list of items related to the header '鮫' and '氷魚'.

一扇  
桃  
竹亭  
喜尾  
松舎  
松風  
得皮  
鳴泉

冬廿六

柴漬

竹苟

鱈

生海菜

Handwritten cursive text in the left column, likely a poem or a list of items related to the header '柴漬', '竹苟', '鱈', and '生海菜'.

松洞  
鷗沙  
于當  
吾舍  
草鳥  
魚候  
仙風  
子阜  
南南  
古橋

河服

酒をひきし酒のしるし酒のしるし  
一なるなる酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし

信子

信子

五来

信花

希双

自後

李山

如信

意國

信子

巴令

末

九和

信子

乙坡

冬廿七

千鳥

酒をひきし酒のしるし酒のしるし  
一なるなる酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし  
酒のしるし酒のしるし酒のしるし

信子

信子

百舟

吟耕

信子

梅雅

薩喜

李雲

信子

喜高

葉漢

素牛

琴雪

鴨

鳴

都鳥

鴨鳴の聲は甲乙の如し

鴨鳴の聲は乙丙の如し

鴨鳴の聲は丙丁の如し

鴨鳴の聲は丁未の如し

鴨鳴の聲は未申の如し

鴨鳴の聲は申酉の如し

鴨鳴の聲は酉戌の如し

鴨鳴の聲は戌亥の如し

鴨鳴の聲は亥子の如し

鴨鳴の聲は子丑の如し

甲乙

乙丙

丙丁

丁未

未申

申酉

酉戌

戌亥

亥子

子丑

冬廿八

鶯

鶯

鶯鳴の聲は甲乙の如し

鶯鳴の聲は乙丙の如し

鶯鳴の聲は丙丁の如し

鶯鳴の聲は丁未の如し

鶯鳴の聲は未申の如し

鶯鳴の聲は申酉の如し

鶯鳴の聲は酉戌の如し

鶯鳴の聲は戌亥の如し

鶯鳴の聲は亥子の如し

鶯鳴の聲は子丑の如し

吳音

貞令

蕊韻

路音

作素加

紫曉

是月

其幽

似蘭

蜀山

水鳥

鷓鴣

水鳥の鳴き声は朝の光  
みづの音も有るがけりる  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光  
水鳥の鳴き声は朝の光

秋水  
當車  
吐詠  
丁友  
山君  
官里  
朽鳥  
作家  
一幹

冬九

木兔  
鷓鴣

木兔の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光  
鷓鴣の鳴き声は朝の光

了考  
作家  
蝶夢  
花朗  
麦守  
梅甜  
巴陵  
輕舟  
兼百  
宗談





袴著 信 袴男  
 被初 上 雉水  
 新嘗會 内 不深  
 御神樂 大和 周泉  
 里神樂 作 作山  
冬三十一

大焼 信 曉臺  
 峻草祭 京 葉龍  
 子祭 和泉 季極  
 子燈心 信 坐忘  
 空也忘 信 如白

夜中

鉢鼓

鉢鼓を鳴らす位ふくくきつら鐘の形  
京中へのの最もきつら

蘭臺  
猿蓑

又きつらおつてつら麻の鉢打  
出つて人きつら肥一人きつら鼓

青々  
雷支

人の世の人多と捨つたもて押  
松葉ふたつてくぬぬ鉢をき

菴祐  
洞山

細くおつて敵のくもつて又河濱  
大所海やうつておつておつて

楊花  
杜川

御七夜

梅もさつてゆかふもつてはさお月  
増華への海濱もつておつて

己百

冬三三二

大師講

顔見世

おのりきも老きぬ顔のうらや  
顔のむらもはつらうつる君か

梅人  
紫夕

かほりも梅のつらつらうつて

踏鳥  
吉橋

冬玉梅

黄鳥のきつて吃つてうらや  
きつてうらやきつてうらや

高志  
雨峰

太山橋

水もきつてうらやうらやうらや  
水もきつてうらやうらやうらや

霍翅  
子楓

芽柳

かほりも梅のつらつらうつて

錦水

種花

かほりも梅のつらつらうつて

松花

葱

雪海苔

初海苔

鯽

松の花をいしきりて煮て食ふと  
うけつゝもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと  
さきもいしきりて食ふと

五 瓢  
中  
友言  
義彦  
橋中  
斗流  
眠子  
雨申  
晋信

冬三三

鯨

牡蛎

鱒

杜文魚

乾鮭

藥食

七浦り湯はありきりて煮  
かき湯や自然な湯に沸かし  
人のいしきりて食ふと  
かき湯や自然な湯に沸かし  
かき湯や自然な湯に沸かし  
かき湯や自然な湯に沸かし  
かき湯や自然な湯に沸かし  
かき湯や自然な湯に沸かし  
かき湯や自然な湯に沸かし  
かき湯や自然な湯に沸かし

菜五  
支百  
菜文  
魚  
儿董  
芋水  
古声  
兼男  
木原  
佐吉

鷄訂酒  
生薑酒  
霰酒  
蕎麥湯  
獵

人<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
堀<sub>レ</sub>楊<sub>レ</sub>梅<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
飯<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
菓<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
石<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
志<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
魂<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
雪<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
雪<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る

軋秋  
貝朱  
睡喜  
罇播  
羽毛  
嵐悠  
三島  
丘高  
里秋  
妻秋

冬三曲

夜具列

鷹狩

ト<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
南<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
獲<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
物<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
雪<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る  
心<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>る

右以  
隼曼  
瓦合  
花縣  
莖史  
跨山  
鳴鳳  
佳志氣  
心言  
意字



事始

寒入

寒内

寒雨

冬の日まはるきし佛入り名  
 銀目まはるけ獄の海向傳あり  
 の事始るるるるるるるる始  
 事始るるるるるるるるる  
 寒入るるるるるるるるる  
 寒内るるるるるるるるる  
 寒雨るるるるるるるるる  
 葉の根の心まはるるるるる

東樹 自至 巴川 如法 道紀 晋來 其環 三象 葉陸 一幹

冬三六

寒月

寒月

寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる  
 寒月まはるるるるるるるる

葉舟 梨風 金備 素雄 俊祐 千影 馬蹄

寒声

戸のくさききしひのしほり  
隙のむくしほりききしひのしほり  
葉のまじり金利のまじり  
まじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり  
かききききききききき  
うききききききききき  
まじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり

暮の  
芝秀  
早涼  
其友  
燕士  
曠善  
投老  
種方  
比老  
松室

冬三七

寒塘雜

雪のくさききしひのしほり  
隙のむくしほりききしひのしほり  
葉のまじり金利のまじり  
まじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり  
かききききききききき  
うききききききききき  
まじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり

什馬  
無諱  
南枝  
餘破  
尺艾  
自珍  
萱杉  
木朶  
桃李  
梅珠

寒曝

雪のくさききしひのしほり  
隙のむくしほりききしひのしほり  
葉のまじり金利のまじり  
まじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり  
かききききききききき  
うききききききききき  
まじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり

梅珠

寒造

寒水

寒紅粉

寒椿

寒梅

しんせうやい海鏡もくろく  
白くも 猿も野に後をひく  
かきつりし けしきも ちのちのち  
刀をく 指の 押りも ちのち  
透るる 枝の 氷も 雪の  
唇より 出る 紅も 雪の  
ちのちの ちの 雪の ちの 雪の  
中身の ちの ちの ちの ちの  
ちのちの ちの ちの ちの ちの  
らん梅も ちの ちの ちの ちの

ほろ 其夜

ほろ 山吏

ちの 桑五

ちの 呂物

ちの 尺素

ちの 誰姿

ちの 周的

ちの 字甲

ちの 干弓

ちの 秋瓜

冬三十八

寒の梅

早梅

冬梅

臘梅

雞乳

らん梅も ちの ちの ちの ちの  
寒の梅も ちの ちの ちの ちの  
早梅も ちの ちの ちの ちの  
冬梅も ちの ちの ちの ちの  
臘梅も ちの ちの ちの ちの  
雞乳も ちの ちの ちの ちの

原志 和友

山嶽 吳野

雲帯 杜口

伊勢 荒的

洞壑 楓川

船若 桃門

芦水



鶺鴒 手負 札納 衣配 節分 年越

かきくちの葉や梅のつらつら  
湯加ふ湯の年をうほし 其の中  
徳重くして札のつらつら  
方條のつらつら 札のつらつら  
ふつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
花とぬく 梅のつらつら 梅のつらつら  
そとへの葉もあるつらつら  
はつらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
梅のつらつら 梅のつらつら 梅のつらつら

用陽 安之  
其中  
相阿  
效枝  
茶者  
下世  
文磔  
古友  
後山  
朱三  
後水  
冬三九

夏打 鵜取刺 松利 厄拵 夏舟

とつらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
傾城のつらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら  
つらつら 梅のつらつら 梅のつらつら

幸陸 柜柙  
万鈴  
吳法 鼎底  
鯨山  
秋秋  
徳重  
貝朱  
丁水  
後山 幸日  
其席

夏祝

年の長き... 梅の香

高 古川 風後 水石 雨竹 石牙 素友 珠光 梅人

冬内暮

岡見

煤拂

すまじや瓶... 煤拂

藤 玉 五 井 南 龍 松

定稿のわらう影や雑さるる  
 葉托ふいせう揺るる松枝履  
 以掃ちむしりの高井井ゆ人  
 ちりり吹らるる海草まき掃  
 煤掃りらるるいりり古きり  
 煤掃りらるるいりり世の音  
 煤掃りらるるいりり日影  
 掃ちらるる掃ちらるる掃ちらるる  
 掃ちらるる掃ちらるる掃ちらるる  
 掃ちらるる掃ちらるる掃ちらるる  
 掃ちらるる掃ちらるる掃ちらるる

素兄  
 披雪  
 引牛  
 鶴飛  
 知必  
 怪舟  
 餅鳥  
 三季  
 朔炊

冬四ノ一

餅のちり湯々の中まき灯の影  
 のきりりいりり餅つゝ娘の神  
 もら夫の餅つゝ明のり  
 もら掃ちらるるいりり朝の音  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影  
 餅つゝまき湯々の中まき灯の影

餅六  
 古井  
 五丸  
 集家  
 月居  
 芦白  
 杉柿  
 何鳥  
 一徹

青蓮の影や雑さるる

一徹

年木

蒙候

鏡等

高市

あまのついでに月夜に...  
ありはし梅も...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...

秋毛

白龍

落葉

琴の聲

馬歌

里秋

推五

古川

山家

普向

冬田二

高市

高市

高市

高市

高市

高市

高市

高市

あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...  
あまのついでに月夜に...

坐忘

随和

旭布

巴川

其西

洞美

如水

珠美

五查

采巾

松賣  
 葉竹賣  
 穂長賣  
 羽子板賣  
 星佛賣  
 門香立

牛の角は風をさしぬる事  
 年が暮る夜は入る市村は花の心  
 雪のうらみは子よの古もなまら  
 赤い夢も花の心は月夜をさ  
 山鳥の尾は川に流る葉林の  
 古井のうらみは海に流る  
 土のうらみは花の心は月夜をさ  
 羽子の心は花の心は月夜をさ  
 星佛の心は花の心は月夜をさ  
 門香立の心は花の心は月夜をさ

松十  
 五竹  
 葉竹  
 穂長  
 羽子  
 星佛  
 門香立  
 有東  
 文車  
 梢舟  
 葉竹  
 有東

冬四ノ三

古曆

古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ  
 古曆の心は花の心は月夜をさ

都雀  
 鼓水  
 木原  
 古葉  
 竹凡  
 柳莊  
 葉竹  
 槐白  
 萬戸  
 已明

古曆

歳暮

歳暮の心は海にまぎる年忘れ  
の意ありて懐梅の香ありけり  
横巻の巻もあつたなりとて空  
らも今よはしむる律 年忘れ  
きりきり心もあつたなりとて空  
ねむる心もあつたなりとて空  
かたし心もあつたなりとて空  
百日月の光もあつたなりとて空  
人もあつたなりとて空  
歳暮の心は海にまぎる年忘れ

月溪 百韻 泰里 瓦合 紫菜 中柱 苾史 九皋 杜音 冬季

冬四回

行年

水の音隣りよりの打鼓の聲  
板の中も空想の法年忘れ  
縁のよきよき年忘れ  
さる法もいよとて空  
ゆきも餅の味ありけり  
行年よ 市もあつたなりとて空  
行年よ 強弁梅ありけり  
一歩もあつたなりとて空  
申すも海にまぎる年忘れ  
心もあつたなりとて空

蜂群 字漱 坡屋 望岳 乙牙 著莪 瓜あ 二種 花舟 雨静

惜歳

春待

春近

小晦日

惜年やゆかりの光に  
行かぬも昔の心よ  
今もふも昔も  
春待つ心よ  
春近の心よ  
小晦日の心よ

女  
曾和

度秋

彦中

梅月

不老

飛来

幽谷

二仙

蝶曼

如洋

冬四五

大晦日

除夜

年夜

大ま

悠々たるかきけり  
灯の影を  
一と年の  
等々たる  
とこの  
まはる  
大ま  
おま

おま  
丹人

鶴飛

小花

巴才

黄治

集知

彦中

彦中

百尾

御

身籠

大...  
補...  
十... 檢... 筆

古謙  
魚淵  
黃水

冬四六終



